

Title	\$ FMENUコマンドについて
Author(s)	大西, 正一; 北本, 昇一
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1985, 57, p. 55-61
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65649
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

\$FMENU コマンドについて

業務掛 大西正一, 北本昇一

\$FMENU コマンドは、名前や内容を忘れてしまったファイル及びカタログを検索したり呼び出したりするとき起きる、操作上のわずらわしさ (CATALOG, LIST コマンドを何度も繰り返す等) を解消、緩和するために作成されたコマンドです。

このコマンドはディスプレイ端末の画面に、利用者の課題番号もしくは指定されたカタログに属するすべてのファイルの名前及びカタログの名前を表示し、サブコマンドによって LIST コマンドや CATALOG, OLD, RELEASE コマンド等を有機的に結合し実行を行うものです。

なお、このコマンドは画面制御機能を使用していますので無手順端末での利用はできません。

1. コマンド形式

\$FMENU (カタログ名)

カタログ名がパラメータとして指定されたときには、そのカタログに属するカタログ及びファイルが対象となり、またパラメータが省略されたときは全てのカタログ及びファイルを対象とした、オールド、リスト、リリース、LP・JPR 出力、カタログの各々の処理を行います。

2. コマンド使用法

2.1. コマンドの機能

\$FMENU コマンドを入力するとメニュー画面 (図1) が現われ、指定されたカタログ下 (指定のないときは課題番号直下) のファイル名及びカタログ名 (以後 "ファイル / カタログ名" と記述) が表示されます。そして以下のサブコマンドを入力することによって各々の処理を行うことができます。

O (オールド) ……指定したファイルをカレントファイルに呼び出します。

L (リスト) ……指定したファイルを画面に表示します。

R (リリース) ……指定したファイルをリリース (消去) します。

P (LP 出力) ……指定したファイルをラインプリンタに出力します。 (\$FPRINT コマンドと同じ)

J (JPR 出力) ……指定したファイルを JPR (日本語ページプリンタ) に出力します。 (\$FPRIJ コマンドと同じ)

C (カタログ) ……指定したカタログに属する、ファイル / カatalogを対象とした、メニュー画面を表示

Z (属性表示) ……指定したファイルの属性を画面に出力します。

2.2 コマンドの終了

次の操作を行うとコマンドは終了します。

- Oサブコマンド、Pサブコマンド、Jサブコマンドを入力、実行させた場合。
- コマンド入力直後に表示されたメニュー画面（もしくはそれと同じ画面）で、サブコマンドを指定せずにキャリッジリターンを入力した場合。

3. メニュー画面

コマンド入力後、対象となるファイル / カatalog名がリストされたメニュー画面(図1)が表示されます。このときファイル / カatalog名は、9文字目以降は切り捨てられ(8文字で表示)、数字(1→9)、英字(A→Z)、-(ハイフン)、.(小数点)の順にソートされます。

メニュー画面の中でファイル / カatalog名の前にある を、サブコマンド入力エリアと呼び、ここにサブコマンドを指定します。メニュー画面の中でカーソルが移動できるのは、このエリアだけです。

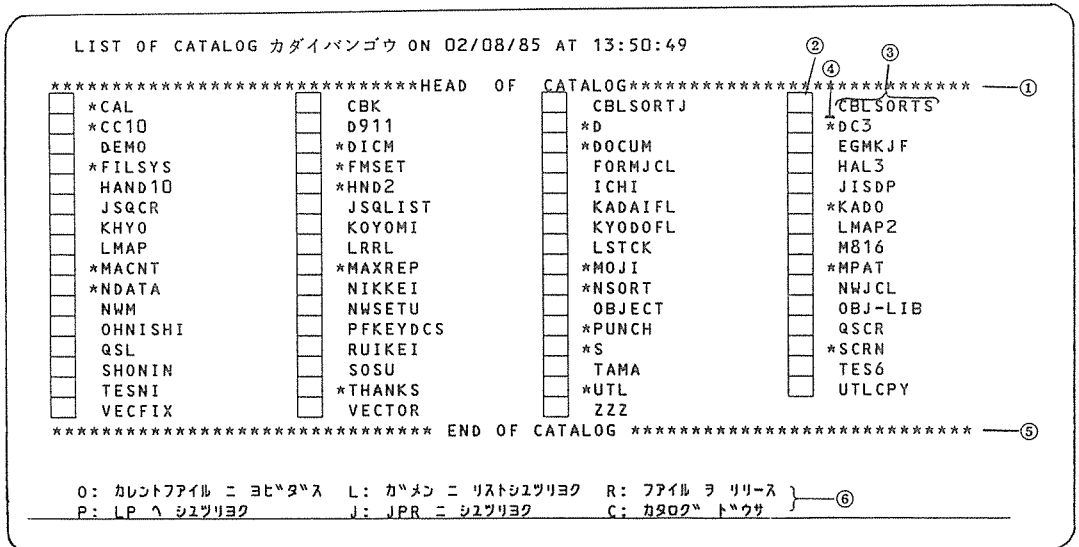


図1 メニュー画面

- ① ファイル / カタログ名の先頭であることを示します。
- ② サブコマンド入力エリア
- ③ ファイル / カタログ名
- ④ *印のついたものはカタログ名です。
- ⑤ ファイル / カタログ名のリストはここで終ることを示します。
- ⑥ サブコマンドの一覧

【備考】

- サブコマンドの入力は、**HTAB** キーと **BTAB** キーを使い、カーソルを目的のファイル / カタログ名の前にあるサブコマンド入力エリアに移動させて行います。
- ファイル / カタログ名のリストが1画面で表示しきれない場合（1画面最大72個）、次の画面を表示させたいときには **I** キーを入力します。また、1画面手前の画面を表示させたいときには **II** キーを入力します。
なお **I** キー及び **II** キーを入力したときに、サブコマンド入力エリアにサブコマンドが指定されていても、そのサブコマンドは無視されます。

4. サブコマンド

4.1. O (オールド) サブコマンド

このサブコマンドは表示されているファイル / カタログ名のリストの中から、目的のファイルをカレントファイルに呼び出すもので、OLDコマンドと同じ機能を持っています。

4.2. L (リスト) サブコマンド

このサブコマンドは表示されているファイル / カタログ名のリストの中から、目的のファイルの内容を画面にリスト出力するもので、LISTコマンドと同じ機能を持っています。

リスト出力後もしくはブレイクによる中断後、

* PLEASE HIT RETURN-KEY

のメッセージが出力されます。ここでキャリッジリターンを入力すると、Lサブコマンド入力時のメニュー画面が表示されます。

4.3. R (リリース) サブコマンド

このサブコマンドは表示されているファイル / カタログ名のリストの中から、目的のファイ

ルをリリース（消去）するもので、RELEASE コマンドと同じ機能を持っています。

サブコマンド入力後、指定されたファイル名が表示され続いて

コノ ファイルヲ リリース シマスカ ? (YES/NO)

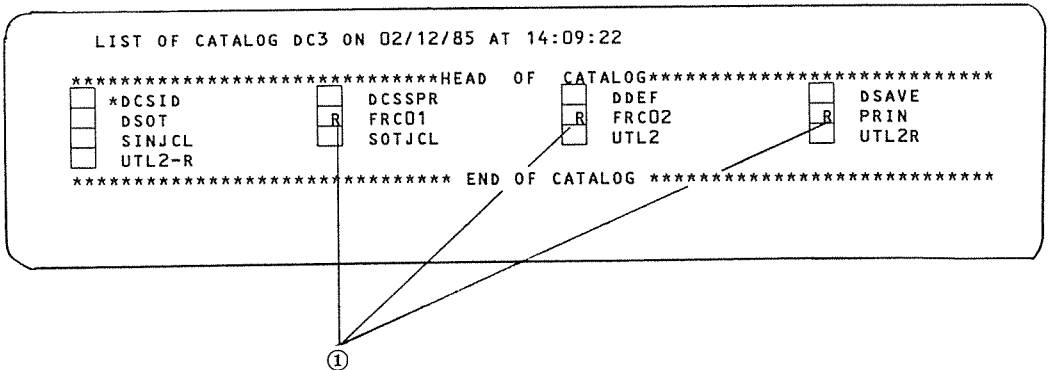
のメッセージが表示されます。ここで▼YES▼と入力すると指定されたファイルが、ファイルシステムから消去され、▼NO▼もしくはキャリッジリターンのみの入力の場合はファイルは消去されません。なおファイルが消去されたときには、

FILE RELEASED—ファイル名

の表示があります。

指定した最後のファイルに対する問答が終わると、\$FMENU コマンド入力直後に表示されたメニュー画面（リリースされたファイルはリストされない）が表示されます。

例1 Rサブコマンドの使用例



- ① 消しようとするファイルのサブコマンド入力エリアに「R」を入力し、キャリッジリターンを押下するとメニュー画面が消える。
- ② システムからファイル名を表示した後、消去するか否かの確認をして来たので、「YES」と入力。
- ③ システムから「FRC01」という名のファイルを消去したことを考えてくる。
- ④ 2個目に指定したファイル「FRC02」は、消去してはならないことに気付き、「NO」を入力する。
- ⑤ 最後に指定したファイルを、②、③と同じ操作で消去する。

4.4. P (LP出力) コマンド

このサブコマンドは表示されているファイル / カタログ名のリストの中から、目的のファイルをセンターのラインプリンタに出力するもので、サブコマンドの入力後は指定したファイルを出力ファイルとする \$FPRINT コマンドの処理になり、コマンドは終了します。

4.5 J (JPR出力) コマンド

このサブコマンドは表示されているファイル / カタログ名のリストの中から、目的のファイルをセンターの日本語ページプリンタ (JPR) に出力するもので、サブコマンド入力後は指定したファイルを出力ファイルとする \$FPRIJ コマンドの処理になり、\$FMENU コマンドの処理および操作は終了します。

4.6. C (カタログ) サブコマンド

このサブコマンドに限り、カタログ名に対して指定します。

指定したカタログ名 (先頭に*印のついたもの) に属する、ファイル / カタログを対象としたメニュー画面が表示されます。

4.7. Z (属性リスト) サブコマンド

このサブコマンドは表示されているファイル / カタログ名のリストの中から、目的のファイルの属性情報 (作成日、最終変更日時、最大容量、現在容量……等) を画面に表示させるものです。

サブコマンド入力後、目的のファイルの属性情報が画面に表示された後、

* PLEASE HIT RETURN-KEY

のメッセージが出力されます。ここでキャリッジリターンを入力すると、Zサブコマンド入力時のメニュー画面が表示されます。

例2 CサブコマンドとZサブコマンドの使用例

```

*****HEAD OF CATALOG*****
C  *DCSID          DCSSPR          DDEF          DSAVE
  DSOT           FRCQ2           SINJCL         SOTJCL
  UTL2           UTL2R           UTL2-R
***** END OF CATALOG *****
  
```

メニュー画面で“DCSID”というカタログに対してCサブコマンドを入力



```

*****HEAD OF CATALOG*****
  AAA1          AAA2          DATA0          DATA1
  DATA2        Z  DATA3
***** END OF CATALOG *****
  
```

カタログ名“DCSID”に属するファイルを対象としたメニュー画面で、“DATA3”という



```

FILE NAME-DATA3
ORIGINATOR-カダイバングウ
DATE CREATED-021885
DATE CHANGED-021885(11:29:33)
LAST DATE ACCESSED-021885
NUMBER OF ACCESSES-1
MAX FILE SIZE-300 LLINKS
CURRENT FILE SIZE-15 LLINKS
FILE TYPE-LINKED
DEVICE-DK4
GENERAL PERMISSIONS-NONE
SPECIFIC PERMISSIONS-NONE
* PLEASE HIT RETURN-KEY
  
```

ファイル名“DATA3”の属性情報が画面に表示された後、*印以下のメッセージが出力され、キャリッジリターンの入力によりZサブコマンドの入力時のメニュー画面が表示されます。



```

*****HEAD OF CATALOG*****
  AAA1          AAA2          DATA0          DATA1
  DATA2        Z  DATA3
***** END OF CATALOG *****
  
```

5. サブコマンドの指定に関する注意・補足事項

- O, L, R, P, J, Z の各サブコマンドはファイルに対しての指定のみ有効で、カタログ（先頭に*印のついたもの）に対する指定は無効です。
- Cサブコマンドはカタログ（先頭に*印のついたもの）に対しての指定のみ有効で、ファイルに対しての指定は無効です。
- 1つのメニュー画面に対するサブコマンドの指定は、1種類のみでCサブコマンド以外のサブコマンドは、同時に5つまでのファイルを指定できます。（Cサブコマンドは1つのみ）
なお、同時に数種類のサブコマンドを指定した時は、メニュー画面の先頭（最上段の左・以後優先順位は左→右、上→下）に最も近い所にするサブコマンドが有効で、それ以外のサブコマンドの指定は無効です。

（参考文献）

- 1) XAE 41-3 NEC コンピュータターミナル N6300 モデル 50 N 通信機能説明書, 日本電機 (1981)
- 2) XAG 41-2 NEC コンピュータターミナル N6300 モデル 55 通信機能説明書, 日本電機 (1983)